

平成30年12月21日（金）

平成30年度第二学期終業式式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

未来を拓く6つの「C」を、身に付けて

12月10日の夕方（日本時間11日未明）スウェーデンの首都ストックホルムのコンサートホールで、京都大学特別教授 ^{ほんじよ たすく} 本庶 佑 先生は、ノーベル医学生理学賞を受賞しました。手術、放射線、抗がん剤に続く「第4のがんの治療法」と言われる、免疫を生かしたがん治療開発への貢献が評価されての受賞です。

本庶先生が自身のホームページで公開している「ゲノムの壁 混沌・仮説・挑戦」の中で、

まず、自分の好奇心 **curiosity** が大切にされなければいけない。次に、それに対して挑戦 **challenge** する勇気 **courage** を持っていたきたい。そして最も必要なことは、これを続けるために十分な自信 **confidence** です。さらに、集中 **concentration** して、継続 **continuation** していく。こういうことはなかなか大変ですが、やっていけば必ず道は開けるものです。

と述べています。

京都大学医学部稲盛ホールでの最終講義なので、受講者は主に医師や研究者を目指している若い学生たちだったのかもしれませんが。時代を変える研究には、いや若者には、6つの「C」が必要だと説いています。

Curiosity（好奇心）、**Challenge**（挑戦）、**Courage**（勇気）、**Confidence**（自信・確信）、**Concentration**（集中）、**Continuation**（継続）、の6つの「C」です。

本庶先生の研究分野は生命科学の免疫ゲノム医学。研究は、顕微鏡を覗き、試験管を振り、何も発見できない、地味な日々の連続です。現に、受賞決定後のインタビューで、「実験というのは失敗するのが当たり前」と述べています。

しかし、「一回一回のことでめげてはだめだ。僕はめげそうになったときは、物事に不可能はない。必ず何か道があると常に考える。」と語ります。本庶先生の座右の銘は、「有志 竟成」。ノーベル博物館に寄贈した色紙にも書かれた四字熟語です。「志があれば必ず成し遂げられる。決してあきらめずに、常に目標を定めていくこと」と、自ら説明しています。出典『十八史略』、後漢の光武帝の言葉で、「志ある者は事竟に成る」に由来します。座右の銘は、本庶先生が「めげそうになったとき、物事に不可能はない。必ず何か道がある」と自らを励まし、勇気づけてくれた言葉だったはずです。

小さい時、野口英世の伝記を読んで強い感銘を受け、がんで医学部の同級生を亡くした経験は、研究への原動力となっています。基礎研究を病気の治療につなげることで、社会に貢献したいという思いを抱いていた本庶先生は、「有志 竟成」という信念の下、自らの研究の在り方、生き方として、6つの「C」の実践者という点では誰よりも優れた人だっ

たのかもしれませんが。とはいえ、それはわずかな希望の光さえ見えないような、限りなく広がる「混沌」という研究の中で、ほんのかすかな光を探り当てるような、挑戦と努力の日々の姿です。また、天才として知られるアインシュタインが述べた「天才とは努力する凡才のことである」という言葉が、想起される姿です。

本庶先生は、ノーベル賞の賞金やがん治療薬「オプジーボ」のロイヤルティー（権利使用料）などを投じ、若手研究者を支援する基金を設置しています。

自我確立期の高校時代は、思春期特有の多感さ、不安定さが訪れ悩み多き時期です。それゆえ、失敗を極度に恐れてしまいがちです。

3年生は、今が苦しい時。不安やプレッシャーを感じたり、悩んだりする日も少なくないと思います。しかし、その苦しさに真剣に向き合わなければならないこの時期こそが、人を伸ばし、成長させます。3年生の皆さんは、3年間の本校での高校生活や部活動を通して、多かれ少なかれ、実はこの6つの「C」を身に付けてきています。また、本庶先生が「最も必要なこと」とする「自信・確信」(Confidence)も、将来そうありたい自己の在り方・生き方や、自己の可能性にチャレンジし続けることに対する「自信・確信」(Confidence)であるとすれば、この時期の3年生はもちろん、勉学や部活動等によって多くの本高生が既に持ち続けている思いです。

テクノロジーが進化し、寿命も延びる未来には、働き方や生き方、人間関係まで変えなければならないと提唱したベストセラー『ライフ・シフト』の著者で、ロンドン・ビジネススクールの心理学者リンダ・グラットン教授は、「人は自分の可能性を広げている時に、愛され大事にされている時に、幸せを感じる」と言います。本庶先生に限らず、自分の可能性を広げる努力は、人にやりがいや幸せをもたらす行為でもあるのです。

本庶先生の説く6つの「C」について、本庶先生自身「こういうことはなかなか大変ですが、やっていけば必ず道は開けるものです。」と言い切ります。3年生は言うまでもなく、本高生へのメッセージとして、

Curiosity は、学びへの「好奇心」、

Challenge は、人生を自ら切り拓こうという「挑戦」、

Courage は、転んでも何度でも起き上がるという「勇気」、

Confidence は、チャレンジし続けることへの「自信・確信」、

Concentration は、自分にとって大切なことへの「集中」、

Continuation は、自分にとって大切なことを続ける「継続」、

と捉えることができます。よりよく生きる資質・能力として、この6つの「C」を受験期や高校生活を通して身に付けることは、将来にとって大きな財産となります。

3年生の皆さんを、3年部の先生方をはじめ、本校のすべての先生方が最後まで支援し、応援し続けます。来年の3月1日は言うまでもなく、将来いつの年にあっても本校の卒業式3月1日に、卒業生の皆さんが未来への笑顔と自信に溢れ、本校をたくましく巣立っていく姿を願って、式辞とします。